

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育総合推進地域事業>

都道府県・
指定都市名

福岡県

地域名

久留米市 明星中学校区

人権課題

同和問題, ハンセン病患者等, 性的指向・性自認, 障がいのある人 等

目標・人権教育
のねらい

○部落差別をはじめとするあらゆる差別について、正しい知識を身につけ、人権問題を自分事として捉え、仲間とともに行動することができる児童生徒の育成。

各組織の動き・役割等

人権教育総合推進会議
→明星中校区の人権のまちづくり推進への協議
○福岡県教育委員会
○久留米市教育委員会
○各小学校区人権啓発推進協議会
○各小・中学校PTA
○地域学校協議会

人権教育総合推進会議
→小中9年間の体系的な教育についての協議
→授業研究や研修会の計画・実施
→人権教育に関する地域・職員向け講演会の実施

久留米市立明星中学校：指導計画に則り、同和問題やハンセン病問題について「人権のつどい」や講演会等を通じて学習した。

久留米市立東国分小学校：指導計画に則り、同和問題や障がいのある人について「人権のつどい」や教育集会所見学等を通じて学習した。

久留米市立高良内小学校：指導計画に則り同和問題、障がいのある人について人権学習や「人権のつどい」、体験活動等を通じて学習した。

校種間連携
の概要

○小・中学校の連携を図るため、小中連絡会を実施し、子どもの情報を丁寧に共有した。また、校区プランの部会ごとに授業公開・授業研究を行った。結果、小学校から中学校への接続を不安や抵抗感を感じさせることなく行うことができ、中学校では9年間を見通した学力保障に力を入れることができた。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育総合推進地域事業>

地域・関係機関との連携の概要

○各小・中学校と各小学校区の人権啓発推進協議会で構成された人権教育総合推進会議において、人権教育の進んだまちづくりの充実について協議を行った。明星中校区で取り組んでいる「人権のつどい」では、地域への大きな啓発とともに子どもの学びに繋がった。

事業成果

●知識的側面：「あなたが特に気になる人権問題は何ですか。」

事業開始時：ハンセン病回復者の人権 10.9% ⇒事業終了間際：17.6%

【生徒変容の分析】

今年度ハンセン病問題について、熊本の菊池恵楓園園長に来ていただき全校生徒を対象とした人権講演会を実施することができた。この講演会と前後の学びで初めてハンセン病について知る生徒も多く、関心が高まったきっかけとなった。

●価値的・態度的側面

「それぞれの個性を認め、仲良くすることができる。」

事業開始時：95.8%⇒事業終了間際100%

「差別を許さない気持ちがある。」

事業開始時：96.6%⇒事業終了間際100%

【生徒変容の分析】増加の幅では大きな変化ではないが、数値が100%に達したことに大きな意義がある。本校区の取組を通して、生徒自身が差別に対し強い怒りを持ち、相手を受け入れていこうという姿が見られ、取組から差別のおかしさについての学びを深めた。

●技能的側面「相手に伝わるように、自分の考えを伝えることができる。」

事業開始時：84.9%⇒事業終了間際90.7%

【生徒変容の分析】中学校区で取り組む「人権のつどい」を通して、差別のおかしさを発信することができた。自分たちが学んできたことを発信し、その思いが参加者に届いたことが何よりも生徒の自信へと繋がった。